ゆう小・夕中が目指す15歳の姿

令和 6 年 4 月　　小中一貫教育スタート！

「ふるさと夕張に誇りをもち、他者と協働しながら学びに向かい、新たな価値を創造する生徒」

ゆうばり小学校
夕 張 中 学 校

小中一貫 NEWS

夕張市小中一貫教育推進委員会

令和6年12月23 日 発行　No.4

小学5,6年生が中学校へ

11月5,8日に「あつやトーク at 夕張中学校」を実施しました。夕中では、地域や学校の特色に応じた課題解決に向けたふるさと学習を総合的な学習の時間に設定しています。今回は、学習のまとめとして、未来のまちづくりに関する提言を厚谷市長はじめ市職員の皆様にさせていただきました。その発表に小5,6年の児童も参加しました。中学生の ICT を活用したプレゼンテーションが、目標とする姿としてイメージできました。

あつやトーク at 夕張中学校
地域学習や宿泊学習を通して体験したことをもとに考察・発表しました。児童の皆さんは真剣に聞いていました。

絆づくり集会～児童会・生徒会が主体となった取組

絆づくり集会
集まって自己紹介。中学生が小学生にやさしく声かけし、お互いのことを知ることから始めました。

12月13日に夕中で「絆づくり集会」を実施しました。ピア・サポートの考え方を活かして、夕中生徒会執行部が企画したものです。毎年、中学校で行っている集会ですが、今回初めてゆう小5,6年と中学生が一緒に行いました。アイスブレイク「じゃんけん列車」からはじまり、3種目のレクリエーションを行いました。小学校児童会による取組の紹介、中学校の絆づくりメッセージコンクール表彰も行いお互いを知る機会となりました。

こうした活動の意義は、異学年交流を通して傾聴・受容・共感を大切にした支持的・親和的な集団づくりに効果があることです。小中一貫教育を導入している学校では、異学年交流を日常的に行うことで、上級生はリーダー性を発揮し、下級生をやさしく導く力を身に付けます。また、下級生にとっては、上級生の柔らかな態度に触れ、安心感につながります。そうした様子を、参観された保護者・地域の皆様にもご覧いただけたのではないかと思います。

アイスブレイクとして行った「じゃんけん列車」。じゃんけんをして、負けたら勝った人のあとにつながっていくゲーム。最後は、ゆう小と夕中が一つの輪になりました。

小中で何に取り組んでいるのか

取組の一部を紹介します。児童生徒指導部会では、ピア・サポートについて、特別支援教育部会では教育のユニバーサルデザイン（UD）についてお互いの取組を交流しています。互いを知ることは小中一貫教育を進めていくうえで大変意義のあることです。こうした交流を経て、9年間の取組として整理されていきます。

小　実践例	【整理整頓しやすい環境①】
	【目的】 ジャンパーや帽子のかけ方が正しくきれいにかけられるようにする。 【解説】 ・「良い例」と「悪い例」を提示し、児童が自分で考えられるようにしている。 ・言葉だけではなく、写真も提示することで、見てまねしやすい。
成果	ジャンパーや帽子が床に落ちていることが少なくなった。良い例だけではなく、悪い例も一緒に提示したことで、どうすればきれいにかけられるかをイメージしやすくなった。

ゆう小の教育 UD の実践報告より。
児童生徒にとって安心して学ぶことのできる環境・授業とはどのようなものかを共に考えます。

2024．12．9

第４回　小中一貫教育推進委員会児童生徒指導部会
ピア・サポート学習実践交流　資料

1、授業内容
（1）実施日　　11月14日
（2）対象学年　全学年
（3）トレーニング　望ましい人間関係　紙面相談　他者理解（指導案、ワークシートは別紙）

指導のねらい
①自分の悩みをみんなが考えてくれるうれしさを実感する。
②自分考えた解決方法が採用されたときの誇らしさ（うれしさ）を実感する。

2、授業の様子
・アイスブレイクで盛り上がり、その後の活発な話し合いにつながっていた。
・小学校から９年間一緒なので、あまり自分の内面の悩みなどは今更恥ずかしくて出ないのではと思っていたが、意外と内面の悩みを書いている生徒がおり、話し合いに深みがあった。
①人見知りなので、人との接し方がわからない。
②何かをやろうとするとき勇気が出ない。
③すぐイライラしてしまう。すぐ怒ってしまう。
④小さなことでもいろいろ考えすぎてしまう。
⑤いろいろと我慢しすぎて、爆発してしまう。
⑥自分に自信がもてず、素を出せる人が少ない。
・よい解決方法が思いつかなくても、「共感する」という生徒が多数いたことから、集団としての成長もうかがえた。

夕中のピア・サポート・プログラムの実践報告より。
自己実現を目指すためには、安心できる集団であることが大切です。そのための取組を共に考えます。

一貫教育の肝は授業づくり

教員の仕事は、よい授業をして子どもたちに確かな力を付けることです。「よい授業」の考え方は、教員それぞれに違いますが、この考え方を整えていくことが一貫教育ではもっとも重要であり効果を生むものです。

公開授業研究会の様子。授業の考え方について協議することは、目指す授業像の共有につながります。

しかし、このことは簡単ではありません。発達段階に応じた授業構成や児童生徒への声かけとなるので、小中の教員では授業づくりの意識に違いが生まれがちです。一貫教育では、こうした違いを認め、互いのよさを強みにして目指す授業像を共有することが大切です。そのうえで、教員それぞれの持ち味や学年に応じた指導・支援で独自性を発揮していくことで授業の質の向上が図られます。こうした校種の枠を超えた授業づくりの研究は数年をかけて成果がみられるものです。

今後の小中連携の取組

1月23日（木）　小6中学校登校　入学説明会

小6児童は、中学校で学習します。中学校教諭の数学・音楽・体育の授業を受け、午後に保護者の皆様とともに説明会に参加します。なお、体育は中 1 生徒との合同体育を予定しています。詳細はゆう小から配付する保護者向け文書でご確認ください。

2月　9日（木）小中一貫各部会議